

平成27年度 事業報告書

特別養護老人ホームさくら
ショートステイさくら
デイサービスセンターさくら
特定施設さくら
居宅介護支援事業所さくら

社会福祉法人横手福社会

1. 法人事業概要

- (1) 法人名 社会福祉法人 横手福祉会
- (2) 所在地 秋田県横手市駅前町14番9号
- (3) 設立認可年月日 平成21年 8月 10日
- (4) 法人事業

第1種社会福祉事業

事業種別	施設名	定員	事業開始年月日
地域密着型介護老人福祉施設	特別養護老人ホームさくら	29名	平成22年4月1日

第2種社会福祉事業

事業種別	施設名	定員	事業開始年月日
短期入所生活介護	ショートステイさくら	20名	平成22年4月1日
地域密着型通所介護	デイサービスセンターさくら	18名	平成22年4月1日

公益事業

事業種別	施設名	定員	事業開始年月日
地域密着型特定施設入居者生活介護	特定施設さくら	29名	平成25年4月1日
居宅介護支援事業	居宅介護支援事業所さくら		平成25年4月1日

その他の事業

なし

2. 職員状況

種別	平成28年3月31日現在 職員配置数					平成27年度中 退職者数	平成27年度中 入職者数
	特養	SS	DS	特定	居宅		
施設長	1						
事務局長	1						
管理者				(1)	(1)		
事務職員	2			1		1	1
生活相談員	(1)	1 (1)	2	(1)	—		
介護支援専門員	(1) 【1】	—	—	(1)	1 (1)		
介護職員	16 【2】	7 【1】	6	13 【1】	—	8 (2名新卒、 2名試用期間内)	7 (うち4名 新卒)

種 別	平成 28 年 3 月 31 日現在 職員配置数					平成 27 年度中	平成 27 年度中
	特 養	S S	D S	特 定	居 宅	退職者数	入職者数
看 護 職 員	1 (1)	1	【2】	2 (1)	—	1	3
機能訓練指導員	(1)	【1】	1	(1)	—		
管理栄養士 栄養士	1 【1】				—		1
調 理 員	6 【2】				—	2 (1名新卒)	2 (うち1名新卒)
介護補助員	【1】	—	—	—	—	1	
清 掃 員	【2】						
用務 (営繕)	【1】					1	1
合 計	85 名 *3名の産・育休者を含む					14	14

* () 書きは同部門の他職種が兼務

【 】書きは非常勤職員

3. 職員会議、委員会等活動報告

(1) 第 1 回全体会議

開 催 日 : 平成 27 年 4 月 1 日

出 席 者 : 理事長、施設長以下、法人全職員対象

内 容 : 辞令交付、新入職員紹介、事業部実績ほか各報告

第 2 回全体会議

開 催 日 : 平成 27 年 12 月 1 日

出 席 者 : 理事長、施設長以下、法人全職員対象

内 容 : 就業規則追加部分説明 (マイナンバー、ストレスチェック、パワーハラスメント)、ソーシャルメディアに関するガイドライン作成について説明、各事業部報告ほか

(2) 運営会議 (リーダー会議)

開 催 日 : 毎月 15 日 11 時から 1 時間

出 席 者 : 施設長、事務局長、各事業所管理者、相談員、リーダー、栄養士、医務
介護支援専門員

内 容 : 前月の各事業部の運営状況の報告や、課題に対し改善に向けた意見交換、
確認事項の周知徹底を図る。

(3) 業務改善・生活向上委員会

毎月第 3 火曜日に開催。利用者の生活において快適な環境整備を図ることを目的とする。活

動内容では、特定施設において、日中の看護職員との連絡をスムーズに行いたいという声に対し、医務用の携帯電話を用意し活用してもらおう。特養では、特別浴槽がある場所に内線がなかったため、入浴中やその後の処置で職員のヘルプが必要な場合の連絡方法が課題であったが、内線電話を設置したことで、スムーズに連絡が取れるようになっている。いずれも利用者への影響を考え職員からの要望に応えた。状態の重度化に伴い、食事介助が必要な方も多くなっている現状では、職員アンケートを実施し限られた人数で安全かつ円滑に業務を遂行するための策を出し合い、リーダーがまとめて実施につなげてもいる。

外部講師を招いての研修は2回開催。いずれも好評であり今後も継続していきたい。

(4) 研修委員会

毎月第2火曜日に開催。コンプライアンスの徹底と職員の資質向上に努めることを目的に、施設内研修会を定期的で開催した。27年度はマイナンバー制度についての理解や職員参加による認知症サポーター養成講座も開催。23年度から継続して行っている外部講師による接遇マナーを学ぶ研修も行えた。今後は職員が望む内容での研修開催や、一人一研修以上の参加を促し、楽しみながら学ぶ内容も検討しながら進めていきたい。

(5) 事故防止委員会

毎月第4月曜日に開催。年に2回の勉強会のほか委員会の開催も定期的に行えた。勉強会は職員アンケートから内容を決定し、要望が多かったリスクマネジメントや実際に起こった事例を基にした検討会を開催し有意義なものであった。施設内で使用している事故報告書の様式を、行政に提出する様式とリンクさせ作成したほか、高齢者に多く見られる内出血についても、その部分に特化した様式を作成、予防に努めていけるようにした。今後の課題として、配薬・転倒・送迎などで、同一内容の事故が繰り返されることが多く、事故後の検討が十分に実施されているのか、検討内容が活かされているのか、などの振り返りの必要性を感じている。同時に再発防止の取り組みとして事故、ひやりハットの内容を深く追求していく必要があったと考える。

*27年度事業部別 事故・ひやりハット件数

	特養	SS	DS	特定
ヒヤリハット件数	84件	66件	41件	56件
事故報告件数 (うち行政報告)	26件 (2件)	39件 (4件)	17件 (1件)	26件 (5件) (同一者で2件)

*事故報告内容の分析

《特養》

ひやりハットの件数が26年の140件から大きく減少した。内容は内出血がその多くを占めるが、27年度からはご自分で動けない方の内出血の発生を事故報告書として挙げるようになったこと、内出血予防の対策としてカバーでベッド柵や車いすの保護、職員が細心の注意

を払って介助したこと、入居者の重症化によることで件数減となっている。

事故件数は78件から26件と減少。この要因としてもひやり同様と考える。事故内容としては爪切り時の出血や入居者個人の物品の紛失、衣類の脱色など職員の不注意から起こしてしまったケースも少なくない。物の取り扱いについても今以上の注意を促す必要がある。また、27年度も骨折による事故が1件あった。事故の発生時間や曜日についても分析しているが、ほとんどが平日に発生しており職員が手薄な土日はその半分程度の件数である。時間帯では23時から5時までの就寝時間帯と考えられる時間には発生していない。

《ショートステイ》

ひやりハットの件数は前年同様。事故件数は56件から39件に減ってはいるが、その内容としては26年度の分析にもあったように、十分な状態把握ができないまま利用となり事故につながったケースが多かった。実際の内容では、ベッドからのずり落ち（転落）や巡視時に床に座り（倒れ）込んでいた、というケースが多く、時間も夜間帯に10件発生している。曜日については各日で発生しており場所は居室内が最も多かった。行政報告となった1件の骨折は、重大な事故につながる前に、数回居室内での座り込み（ベッドからのずり落ち）や転倒が繰り返されていたが、職員側からの介入が難しい方であり対応に苦慮しながらかかった結果であった。自宅での過ごし方を大切にしつつも、施設としての安全管理をどこまで行えばよいのかを深く考えさせられたケースであった。その他誤薬事故では、かかりつけ医との連携をとりながら対処したケースもあった。

《デイサービス》

ひやりハット・事故の件数ともに前年より多くなった。ひやりとして目立ったのが、職員の確認不足によるものであった。内容は送迎ミス（同じ名前の方や休みの確認もせずに迎へに行ったなど）や、持参する昼食薬を同じ内容の朝あるいは夕食薬と間違えて持ってきたなどであり、いずれもしっかりと確認すれば防げた内容であった。事故内容は転倒、転落が多く時間はサービス提供時間を通じて発生していた。3月に1件の重大な事故が起きたが、朝の迎えの際、玄関先が雨だれにより凍っていたことで足を滑らせ転んでしまったケースであった。ご家族もその場におり、早急に対処したが、結果骨折となってしまった。いつもと変わらぬ場面の中にも、常に危険が潜んでいることを再確認し、一層の注意とリスクマネジメントを行う必要性を改めて感じた。

《特定施設》

ひやりハットで挙げた内容で一番多かったのが薬の配薬セットミス。発生（発見）時間も夕食時に集中している。これは看護職員の人員配置不足によって十分な確認ができず、服薬前に介護職員が気づくケースが多かった。ほか内出血、ベッドや車椅子からのずり落ちと続いた。

事故報告では転倒・骨折が最も多くうち5件が行政報告となった。2件が同一人物で同月に起きた事故であった。事故分析の話し合いから、本人の歩行状態の変化と精神面での不安

定さに対する支援内容が合っておらず、十分なリスクマネジメントが出来ていなかったことが判明。速やかに再発防止に向けた取り組みを行い、以後は事故もなく過ごされている。

(6) 感染予防委員会

毎月第2木曜日に開催。27年度の目標を「施設内における感染予防と、感染症発症時に迅速かつ、適切な対応ができる。」とし活動を行った。具体的な内容として、

- ① 感染予防パンフレットを作成・使用し、新人研修で手洗い・防護用具（マスク・手袋・プラスチックエプロンなど）の装着方法・感染症について、職員が気をつけなければいけないことなどを詳しく伝えることができた。今後は途中入職の方々にも指導をしていきたい。
- ② 前期（7～8月）・後期（12～1月）の2回手洗いオーデット（手洗い確認）を行った。本来、オーデット全28項目「はい」にならなければいけないはずだが、1回目・2回目を比較してみると「いいえ」の数はほぼ変わりなく、有意な差は見られなかった。1回目終了時、「手洗いをしなくてはいけない理由」を明記して配布。各自目を通し「手洗いをしなくてはいけない理由」は理解されているものと思われていた。今回このような結果から、手洗いの理由を理解せず、正しい手洗いができていない職員がいるとの判断となった。改善策として、2回目のオーデットで「いいえ」の項目がある職員には感染委員が個々に指導を行い、手洗いの必要性を理解してもらう事とした。
- ③ 年2回保健だよりを発行した。6月：食中毒について、10月：新型ノロウイルスについて。感染症の時期に合わせた保健だよりを発行することができた。今後も続けていきたい。
- ④ 27年度の大きな目的であった、感染症発生時のマニュアルを完成させ、必要物品を揃えることができた。このことにより、施設で共通した対応ができるようになったことは感染予防委員会にとって大きな進歩だと思う。28年度は、マニュアルを生かし職員全員が正しい対応ができるよう指導していきたい。
- ⑤ 外部講師を招いての「吐物処理方法」の研修会は、実践的であり学ぶことが多かった。28年度も研修委員会と合同で行なっていきたい。

(7) 行事委員会

毎月第3水曜日に開催。利用者の余暇活動の充実を図ることを目的とし、夏祭り・敬老会・文化祭を行った。夏祭りは天気にも恵まれ無事に終えることができた。祭りの最後は盆踊で締めくくり、多くの参加者があり賑やかなものとなった。敬老会では26年度の反省から、午後のみ会とし式典・余興を行った。対象者の年齢の数え方が統一されておらず2度対象となった方もおり反省としてあがった。3度目の開催となる文化祭では、集客が少なく引き続きの課題となった。その他地域の一員として、かまくら祭りへの参加やデイルームを活用したイベント開催などができないだろうか、といった声もあり28年度へと引き継いでいく。

(8) 給食委員会

毎月第3月曜日に開催。27年度の目標を「利用者の声をきく」とし、各部署に設置した「お食事感想ノート」を継続活用したが、実際にその内容が厨房にどのような形で反映されていた

のかわからず、厨房現場からの声も必要だと感じた。一方で栄養士や厨房職員が食事の様子を見て、利用者からの直接の声を聞いてくれていたのが良かった。希望献立・行事食（献立表など）も好評であった。また、器の劣化が目立ち新たに購入もできた。

(9) 広報委員会

毎月第4水曜日に開催。27年度は、季節に合わせ広報を定期的に発行し、「委員会紹介」・「施設内紹介」を取り入れ、題字「さくら」を長年書道を嗜まれてきた入居者様に書いて頂くなど新たな内容で情報発信することが出来た。ご家族様や利用者様へ広報内容に対する意見についてアンケート調査を行い、字の大きさ・写真の枚数等は見やすく良好だご意見を頂いている。今回初めてアンケートを実施し、現状と課題をとらえ、今後の広報のあり方について考えるきっかけとなった。今後はますます情報発信の重要度も高まり、さくらの魅力を最大限に引き出すとともにより身近に感じて頂けるような広報活動に努めていきたい。次年度は“B4両面印刷から冊子型への変更”や“通し番号の記載”を追加するなど工夫を凝らしたさくらオリジナルの広報を作成していく。

(10) 安全委員会

「介護職員によるたん吸引等研修」を安全に行うために設置。27年度は介護職員の人員に余裕がなく研修には参加できなかった。

(11) 入居判定委員会

公平かつ公正な特養・特定施設への入居となるよう、その判定を行うために不定期で開催。施設長・管理者・生活相談員・看護職員・介護職員・栄養士・介護支援専門員等で構成。特養では6名、特定では2名の方が入居された。

4. 職 員 研 修

(1) 施設内研修

日 時	研 修 内 容	講 師	開催場所	参加数
4月1日	コンプライアンスの徹底について	全体会議にて	会議室	57名
6月4日	排泄ケア（おむつの当て方）	外部（メーカー）	会議室	9名
7月19日	救命救急講習		横手消防署	11名
8月16日				5名
7月10日	電話応対について	研修委員会	デイルーム	15名
7月15日	熱中症について	研修委員会	デイルーム	21名
9月5日	認知症サポーター養成講座	研修委員会	デイルーム	27名
9月11日	リーダー・相談員対象 コミュニケーションスタイル	外部講師	会議室	18名
9月28日	事例検討・身体拘束、虐待防止	事故防止委員会	デイルーム	22名
10月15日	気をつけたい冬場の感染症	外部（製薬会社）	デイルーム	17名

日 時	研 修 内 容	講 師	開催場所	参加数
10月29日	マイナンバー制度・ プライバシー保護について	研修委員会	デイルーム	30名
11月26日	感染症対策（吐物処理）	外部（横手保健所）	会議室	26名
1月20日	認知症サポーター養成講座	研修委員会	デイルーム	21名
2月22日	現場における介護事故とリスクマ ネジメント	事故防止委員会	デイルーム	22名
3月4日	マナーと接遇について	外部講師	デイルーム	18名
3月11日	施設での生き方・逝き方を 考える	外部講師 （横手市医師会）	会議室	30名

(2) 施設外研修等

開催日	研 修 内 容	職種・参加人数
5月13日	マイナンバー&セキュリティ講座	事務員 1名
5月12・13日	福祉保健施設職員 新任研修	介護員 1名
6月12日	マイナンバー、ストレスチェックのポイント	事務員 2名
6月16日	調理技術研修	調理員 1名
6月3日～ 8月11日	認知症介護実践者研修（1回目）	介護員 （サブリーダー） 1名
6月18・19日	メンタルヘルス講習会	生活相談員 1名
7月10日	認知症ケアシリーズ 「講習会」	介護員 1名
7月24日	施設給食担当職員研修	栄養士 1名
8月18・19日	施設等相談援助職員研修	生活相談員 1名
8月25・26日	福祉保健施設・事業者等職員中堅研修 I	介護サブリーダー 1名
8月29・30日 9月5・6日	介護福祉士実習指導者講習会	介護統括リーダー 1名
8月28日	県南地区給食施設関係者研修会	栄養士 1名
9月3・4日	東北ブロック老人福祉施設研究会	介護員リーダー 2名
9月8日	腰痛予防対策講習会	介護統括リーダー 1名
9月9日	マイナンバー制度対策セミナー	事務員 1名
9月8日～ 11月14日まで	認知症介護実践者研修（2回目）	介護員リーダー 1名
9月10日	介護事業場に対する労働契約等の説明会	事務局長、事務員 2名
9月30日	高齢者虐待防止セミナー（在宅編）	介護員 1名
10月1日～ 12月11日	認知症介護実践リーダー研修	特定管理者 1名

開催日	研 修 内 容	職種・参加人数
10月8・9日	防火管理新規講習	介護統括リーダー 1名
10月14日	福祉サービスに関わる苦情解決研修会	施設長 1名
10月22日	横手市地域包括ケアシステム構築セミナー	生活相談員 1名
10月24日	ショートステイフォーラム・あきた	生活相談員 1名
10月27・28日	県老協 施設長研修会	施設長 1名
11月2日	高齢者虐待防止セミナー（施設編）	介護員 1名
11月13日	横手市ブロック老協 職員研修会	介護員他 計11名
11月17日	福祉施設・事業者等事務職員研修	事務員 1名
11月26日	介護サービスと実地指導の準備セミナー	施設長 1名
12月8日	横手市福祉施設栄養士研修会	栄養士 1名
1月26日	経営協 社会福祉法人制度改革対応セミナー	事務局長 1名
2月9日	決算セミナー	事務員 1名
2月10日	27年度 新総合事業の取組支援事業研修	施設長 1名
2月20日	食介護の準備を学ぶ会	栄養士 1名
2月23日	介護職員たん吸引研修事業 指導看護師打合せ会議	看護師 2名
2月29日	横手市 他職種連携研修会	生活相談員他 4名
3月3・4日	県老協 施設長研修会	施設長 1名
3月4日	介護従事者講座 記録の書き方	介護員 1名
3月19日	口腔ケア 研修会	介護員 1名

5. 平成27年度 行事報告

開催日時	行 事 内 容
6月25日（木）	全事業部合同自主避難訓練
7月26日（日）	第6回 さくら夏祭り 駐車場にて開催
9月13日（日）	敬老会（午後開始。式典後余興。赤飯やお刺身などの行事食でお祝い）
11月2～8日	文化祭開催（利用者作品展示 最終日にはバザーを開催）
11月6日（金）	消防署立ち合い全事業部合同避難訓練（入居施設は夜間想定で行った）
12月24・25日	クリスマス会（行事食・各事業部で趣向を凝らし実施）
1月1～3日	正月行事
2月3日（火）	節分 豆まき（職員が鬼に扮し各事業部をまわる）
3月3日（火）	ひな祭り（行事食）

6. 平成27年度 ボランティア・実習生、視察受け入れ

日本赤十字秋田短期大学	介護福祉学科 介護実習 I、II合わせ	3名
湯沢翔北 専攻科	介護福祉科 介護実習 I	1名
秋田大学	介護等体験実施（教育学部 学生）	1名

コアビジネス専門学校	初任者研修・他施設実習先として	1名
県介護人材確保対策・介護従事者新規就労支援事業	講習会会場提供 (職員が講義・演習講師となる)	6名
認知症介護実践者研修1・2		計 17名
認知症介護実践リーダー研修		6名
夏祭り、敬老会ボランティア	城南、六郷高校生徒、看護学生、専門学生等	20名程
社会福祉法人高寿会(岩手)	6/25 特定施設見学(地域密着型サービス見学)	6名
社会福祉法人常心福祉会(岩手)	10/25 特定施設見学(特定施設建設予定にて)	6名

7. 平成27年度 各事業部稼働率

事業部	定員	営業日数	年間平均稼働率	一日平均利用者数
特別養護老人ホーム	29名	366日	97.5%	28.2人
ショートステイ	20名	366日	88.7%	17.7人
デイサービス (3/1～定員変更)	20名 18名	311日	73%	14.5人
特定施設	29名	366日	97.8%	28.3人
居宅介護支援事業所	登録平均件数 40件		実績平均 36件	

8. 平成27年度 まとめ

介護報酬改定が行われた平成27年度は、当初から厳しい事業運営が予想されていたことから、早々に各事業部の事業精査を行い、加算取得から収入増につなげる取組みを行ってきた。しかし、基本介護報酬の減額が大きく、結果、加算取得で減額分をカバーできてはいない。次期改定に向け軽度者の切り離しや給付の適正化・利用者負担割合の見直しも囁かれ、引き続き厳しい経営が予想されることから、28年度は今まで以上に現状の見極めとその分析を冷静に行い事業運営していく必要がある。

人材確保においては、年2回の定期的な面談を含め職員からの声を丁寧に汲み取る関わりを意識し行ったほか、初の事業として「秋田県介護人材確保対策・介護従事者新規就労支援事業」を受け入れ、未経験者の採用も行った。極端な人材不足には至ってはいないが、今後も余裕を持って仕事ができるよう、引き続き実習生を含めた事業の受け入れを行いながら安定した職員配置になるよう努める。質の向上に向けた取組では、施設内外の研修の充実のほか、利用者等からのお申出(苦情)に対し、速やかに対応し改善に向け動いた。26年度の反省から職員の不適切な関わりが疑われた場合には早急に聞き取りをし、必要に応じての指導も行った。利用者が安心してサービスを利用できるよう倫理面での教育も継続して行っていく。その他、防災(減災)への対応として事業部毎の防災備品の点検や、年2回の消防避難訓練では夜間を想定しての訓練も行い危機管理に努めた。

26年度から始めた「集いの場(カフェ)」は、毎月第一土曜日の午前中に施設が地域の社会資源になるよう相談や見学を受け付けている。まだまだ周知不足で集客には繋がっていない現状ではあるが、継続することが法人理念でもある「住み慣れた地域で安心して暮らせるサービスを提供することになるのではないかと考えている。

開設から丸5年が経過し、地域の中での法人・事業所としての評価が直接の実績（稼働率）としてははっきりと見えてきているのを感じている。今後も利用者・家族・地域・関係機関からの信頼を、今以上に厚くするような関わりができるよう、専門性を高めた利用者（家族）支援を行っていく。

以下、27年度の各事業部の報告を致します。

特別養護老人ホームさくら

年間稼働率は97.5%、26年度と比べ僅かに減少（0.5%）した。入院数・退居者数と26年度とほぼ同様であったが、同一者で2名の方が入退院を繰り返し、1名が延べ3ヵ月、1名が1ヵ月半の入院期間となったことがその原因と考えられる。6名の方が施設でお亡くなりになったが、うち4名は看取り介護として関わらせていただいた。27年度から看取り介護加算の算定要件の充実もあり、家族を含めたより一層の支援ができたのではないかと振り返る。かかわりの中でいただいた多くの学びを、これからの支援に活かしていきたい。

重点目標の「1.ユニットケアの構築および推進」では、年間を通しての勉強会を27年度から開催。職員の質の向上が入居者の生活の質の向上につながるよう努めた。内容は現場で活かせるものが多く、かかわりの中で反映している職員も多く見られた。この取り組みを今後はより具体的なものとし、28年度は法人の見せる化と併せ「実践報告会」として公開していく。支援内容ではケアプランを軸とした支援の統一が行えるよう、カンファレンスを中心に情報の共有に努めた。記録については、内容が薄く不十分な点も多い。引き続き確認しながら指導していく。

「2.他職種との連携を図り、入居者の健康管理と安定した稼働に努める」では、申し送りの内容が伝える中で変わってしまうことがあった。幸い大きな事故には至らなかったが、再度申し送り方法を確認・検討し実施している。細やかな状態把握を行い異常時の早期発見・対応に努めたが、入居者の高齢化、状態の重度化もあり入退院を繰り返すケースもあった。27年12月より夜勤職員の数を配置基準より1名多い3名とした。特養以外でも緊急時に対応できるような体制としたことで、支援の充実以外にも職員の介護負担軽減にもつながったのではないかと考える。

特別養護ホームさくら入居者情報

平成28年3月31日現在

(年齢構成)

年 齢	69歳以下	70～79歳	80～89歳	90～99歳	100歳以上
男 性	0	0	4	2	0
女 性	1	3	11	8	0
合 計	1	3	15	10	0

男性平均年齢 86.8歳 女性平均年齢 85.9歳 総合平均 86.7歳

(介護度)

介 護 度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
男 性	0	0	1	2	3
女 性	0	2	2	8	10
合 計	0	2	3	10	13

男性平均介護度 4.3 女性平均介護度 4.2 総合平均介護度 4.2

- ・1年間で入院された方・・・9名（呼吸器不全、心不全、クモ膜下出血再発、腹膜炎疑い等
同一者入退院を繰り返すケースが多かった）
- ・1年間で退居された方・・・7名（うち6名が施設で死亡。看取り介護実施は4名）

*特養での取り組み紹介

4/18ーお花見ドライブ 4/26ーお花見ランチ（デイルームで昼食） 5/9ー母の日（押し寿司）
6/20・10/8ーいきいき美容教室 7/23ーかき氷レク 8/5ーふるさと村へ
8/28ー花火レク（ショートと合同） 10/30ーミニ運動会 12/24ークリスマス会
12/28ー餅つき 2/3ー節分行事 3/3ーひな祭り

ショーツステイさくら

年間稼働率は80～93%の間で経過し平均稼働率は26年度に比べ僅かに減少（0.8%）している。要因として、27年介護保険改正で長期利用者の介護報酬単価の減算、それに伴う調整、病院退院後の長期利用の問い合わせに対し、実際の利用とはならず仮抑えした居室を埋めることができなかったことが考えられる。接遇マナーの向上（言葉遣いと態度）を重点目標として支援にあたったが、丁寧さや配慮に欠けていた部分もあり、お申し出につながったこともあった。利用者、家族が安心して利用できることが、住み慣れた地域で暮らし続けることを支えることになる、ということを確認し信頼関係を築き、稼働率の安定を図りたい。

デイサービスセンターさくら

毎月の稼働率が70%を超え、開設6年目で初の定員20名の受け入れが出来た日があった。年度ごとの稼働率は徐々に伸びてはいるが、目標としていた数字までは届かず。体調不良や入院・施設入所などの変更もあり、キャンセルを見越してのスポット利用者を増やしてはいるがまだまだの状態である。稼働率のアップを重点目標に掲げ働きかけを行ってきた。お試し利用から新規利用につながるなどし、ほぼ毎月新規利用者を紹介いただいた。引き続き「さくら」でなければならないサービス（作業療法士や看護師による機能訓練、レクの充実）を充実させ、利用者はもちろん外部の関係者からの満足度の向上に努めていく。

満足のいくサービスの提供では、午前の入浴待ちの時間の過ごし方を見直しテレビ体操やJOY SOUNDの活用で工夫している。アンケートから利用者、家族の声を引き出しサービスに反映させる取り組みも行った。

ご家族、・担当ケアマネジャーとの連携では、送迎時や担当者会議等で聞かれた思いや意向を、かわりの中でふれていくなどの配慮に努めた。また27年度もご家族向けに「集いの会」を開催し、食事を囲みながら、利用者の様子や、日頃の悩みや思いを話す場を持つ事ができ、対職員だけではなく家族同士の交流、情報交換の場を提供できた。28年からは地域密着型通所介護事業所として、今まで以上に透明性のある事業運営を行い、外部（地域住民のボランティア）との関係性を確保しながら進めていきたい。

特定施設さくら

3年目となり稼働率は97.8%。冬場に体調不良から入院者が数名出た以外では安定した状態で経過した。重点目標として取り組んだ1.自分らしい生活ができ、安心できる「自分の居場所の提供」では、利用者個々の状態に合わせたケアを職員同士で情報共有しながら関わるよう努めたが、職員側の人員配置の関係から、生活の中での楽しみにつながるレクリエーションが十分に提供できなかった。28年度は、日々の生活の中での動き（体操や創作活動等）に楽しみが持てるよう工夫しかかわっていく。2.人生の終末期を過ごす「家」としてのサービスの実施では、居室担当職員が中心となりその方の状態に合わせた環境整備を行ったほか、体調に変化が見られた際には速やかに報告し、医務から主治医や病院と連絡をとり、受診等の対処を行い健康管理に努めている。受診時の主治医への情報提供書の提出も情報の共有に役立っている。

入居者情報

平成28年3月31日現在

(年齢構成)

年齢	69歳以下	70～79歳	80～89歳	90～99歳	100歳以上
男性	1	0	3	3	0
女性	0	2	11	8	0
合計	1	2	14	11	0

男性平均年齢 85.4歳 女性平均年齢 86.8歳 総合平均 86.4歳

(介護度)

介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
男性	2	1	1	1	2
女性	7	3	3	4	5
合計	9	4	4	5	7

男性平均介護度 3.0 女性平均介護度 2.9 総合平均介護度 2.9

- ・1年間で入院された方・・・4名（脳梗塞、腸閉塞、骨折、腎不全等）
- ・1年間で退居された方・・・3名（病院にて死亡、他施設へ入居、さくら特養へ入居）

*特定施設での取り組み紹介

4/21－花見 4/21－稲庭うどん（慰問） 5/11－母の日（パンケーキ作り）
 6/15－父の日（ギョーザ作り） 6/20－いきいき美容教室 8/5,18－ふるさと村へ
 12/24－クリスマス会 12/30－餅つき 1/1－お正月（初売り、初詣、書初め）
 2/3－節分行事 3/3－ひな祭り（桜餅作り） その他、文化祭に向けてのこけ玉作り
 秋には干し柿作りを行った。誕生日のお祝いや外出・買い物支援も随時行っている。

居宅介護支援事業所さくら

職員2名体制で運営。相談件数も増え登録件数・実績と確実に数字を伸ばしている。本人・家族の意向に沿えるようサービス提供事業者や関係機関とも連携を図り、在宅生活維持のためのケアプランを作成するよう努め実施した。総合事業の導入に伴い、プランや提供表の作成等を地域包括支

援センターより助言をいただき、外部研修の参加で専門性の向上にも努めた。円滑なサービス提供に繋がるようかかわるとともに、さくらにお願いして良かったと思っただけのようこれからも努めていく。

医 務

27年度の目標は 1.入居者様・利用者様一人ひとりの状態変化に応じた健康管理に努め、充実した日常生活が送れるよう努める。2.入居者様・利用者様一人ひとりが安全な環境で、安心・安楽に過ごせるよう努めるとし、具体的には以下のように取り組んだ。

① 日常の健康管理に努める。

医療の視点に加え介護スタッフからの情報により、入居者・利用者の状態をより詳しく把握することができた。その情報を元に他職種と連携し、例えば、塩分制限・カロリー制限のある方々に食べる楽しみを残しつつの食事やおやつの工夫、作業療法士と相談し現在より関節の拘縮が進まないよう姿勢やクッションを使い工夫する等、医務だけでは解決できない部分の助言や指導ももらった。これからも楽しみを含んだ健康管理に努めていきたい。28年度は生活の中で楽しみも取り入れたリハビリ的な動作を、日常生活の中に取り入れてみたいと考えている。

② 疾病の早期発見・対応に努める。

発熱等いつもと違う症状が出た場合は、早期にかかりつけ医の受診を進めた。また、嘱託医と連絡を取り、医師の指示のもとに早急に対応することができた。介護スタッフの適切な判断での状態報告により症状の早期発見につながったこともあった。医療機関への受診も全スタッフの協力・連携により円滑に行なうことができた。

③ 緩和ケア・看取り体制の充実を図る。

27年度も数名の方々を、さくらで看取らせて頂いた。26年度の反省であった、本人・家族との十分な話し合いからさくらでできる医療行為を前提として、その中から本人・家族が望まれた医療・看護を提供出来たと考える。一方で家族より、「看取るということまた、死がどんなものか理解できない。受け止められない」という言葉が聞かれた。この不安に対しては、最期を迎える前に起こり得る状態やその理由、お亡くなりになったときの状態やその後、自宅に帰られるまでの流れを記載したパンフレットを作成した。今後、本人や家族、周囲の不安が軽減されるように活かしていきたい。とはいえ、まだまだ看取りについてできることは沢山あると思われる。個々にあった看取りを目指し、「さくらで最期を過ごせてよかった。」と感じていただけるように努めていきたい。

そのほか、毎年のことではありますが、誤薬や配薬ミスなどヒヤリハットや事故を繰り返すことがあった。今後そのようなミスを繰り返さないよう努力し、入居者・利用者が安全で安心できる環境で過ごせますよう精進していきたい。

厨 房

「健康管理の徹底、食中毒の再発防止策を徹底し安全な食事を提供します。」を目標に、一年間大きなトラブルや感染症の発症もなく安全に食事を提供できた。個々に責任を持ち体調管理や予防策に努めた結果と思われる。引き続き継続し行っていく。食事に関しては、給食委員会からの振り返

りにもある通り、職員が利用者の声を直に聞き対応したことで、満足していただけた部分も多かったのではないかと考える。また、季節に合わせた食材を使った食事メニューやおやつも好評であった。